もりの隆 かわら版

第６号

発行人 森野 隆
愛知郡愛荘町愛知川744-1
TEL 0749(42)6074
FAX 0749(42)5574

ご挨拶

いつしか葉桜の季節を迎え、青空に鯉のぼりが泳ぐ日も目の前です。日頃は格別のご支援を賜り、ありがたく厚くお礼申し上げます。いつも「かわら版」をお読みくださいまして、ありがとうございます。

３月定例会では、町長が上程した38議案について審議しましたが、その中で最大の議案が「令和５年度一般会計予算案」でした。また、一般質問では「全国学力・学習状況調査結果」と「グランドデザイン２０４０」を取り上げました。

その概要についてご報告させていただきます。４月末に町HPで公開予定の「議会動画配信」もご覧いただければ幸いです。

これで良いのか!? 愛荘町の行政と議会、そして森野 隆（議案審議）

一昨年４月の臨時会で、町長は「議員の賛成を得る見込みが立たない」ことを理由に、庁舎等の集約に関する補正予算案の提出を断念されました。その後**２年近くの間、何ら議会との協議・討論をすることもなく**、３月定例会に再び、新保健センター建設および交番跡地の駐車場整備関連を含む令和５年度当初予算案を上程されました。

私は澤田源宏議員とともに、関連事業費のうち約７億５，７００万円を減額する修正動議を予算・決算特別委員会に提出しました。理由は、①新保健センターについては、令和３年４月に庁舎統合予算を**取り下げたにもかかわらず**、同年10月に建築確認申請し**建築確認を取得**したこと ②交番跡地については、その後、官舎用地１，４２０㎡を新たに取得したことにより、跡地が４，６００㎡から６，０００㎡へ1.3倍に拡大したにもかかわらず、約80本の基礎杭をそのままにして解体するなど、**職員用をメインとした駐車場以外の有効活用を考えていないこと** ③秦荘庁舎については、支所業務だけでなく**有効活用の余地があること**です。

一部の新聞でも報道されましたが、その後の経緯は次のとおりです。（議員名：敬称略、議員議席番号順）

３月13日：予算・決算特別委員会（村田議長を除く全議員13名で構成）

修正案：可決（賛成６：澤田、森野、上田、外川、瀧、辰己。反対６：久保田、小菅、中川、高橋、河村、竹中。賛成と反対が同数のため、**村西委員長採決により可決**）

３月16日：村田議長、**任期を残して辞職願を提出**。

３月24日：本会議

議長選：１回目、村西７票、河村５票、白票２票。村西氏辞退。議会運営委員会を開催。再度、議長選へ。

２回目、村西７票、河村７票。同数のため、くじ引きの結果、河村氏当選。河村氏辞退。議会運営委員会を開催。これ以上の混乱を避けるため、１回目に７票を取った村西氏にお願いして、議長を受けることを承諾いただいたうえで、３回目の議長選へ。

３回目、村西13票、白票１票。村西氏就任。

修正案：否決（賛成６：澤田、森野、上田、外川、瀧、辰己。反対７：久保田、小菅、中川、村田、高橋、河村、竹中）。

R5年度当初予算案：賛成多数で原案どおり可決。

修正案は、予算・決算特別委員会で可決されたにもかかわらず、「議長は中立性を保つために採決に加われない」ことを逆用した「議長職の押し付け合い」の結果、**賛成派が１名減り、反対派が１名増えたことによって、本会議では逆転、否決**されました。

町長が尽くしたと言われる**「議論」は、議論ではなく「説明」と「報告」**です。だから、予算・決算特別委員会で多くの委員から様々な質問が噴出して、賛否が分かれたのです。

私は当初から、**庁舎等の集約には大賛成であり**、一刻も早く着手すべきとの立場ですが、**町長の議論を封じる進め方には問題がある**と思って修正案に賛成しました。

住民の皆さまは、この経緯をどのように受け止められるでしょうか。このような経緯があったことをご存じない方も多いのではないでしょうか。この問題を行政と議会の「コップの中の嵐」にしてはいけません。**住民不在の多数派工作**に終わった最大の原因は、町長の議会に対する説明不足に加え、私たち議員が「計画の問題点を住民に伝えて意見を聴き、行政と議論する」という努力を怠ったことにあります。まさに「これで良いのか！森野 隆」です。**大いに反省しなければなりません。**どうすれば住民本位の議論を取り戻すことができるのか、もう一度、一から出直すつもりで、真剣に考えたいと思っています。

どうか、厳しいご意見とご叱責をお寄せくださいますよう、心からお願い申し上げます。

これで良いのか!? 子どもの教育とまちづくり（一般質問）

①全国学力・学習状況調査結果と子どもを育む全町的取り組みの必要性について

広報12月号を読まれた保護者の方から、かわら版にお手紙をいただきました。「**点数に一喜一憂する訳ではないが、愛荘町の平均点は、全国を大幅に下回る滋賀県平均と比べても、更に低い傾向が長年続いている。毎年、対策が公表されるが、長い間、具体的な成果が表れていないのは、根本的な分析や効果的な取り組みがなされていないためと言わざるを得ない**」という厳しい内容でした。

過去３年間の調査結果を詳しく見ますと、例えば「国語」では小・中学校ともに、すべての項目で正答率が全国最下位の県平均を下回るとともに、平均正答率も県との差が前年に比べて拡大しており、「**学力の低下**」がはっきり見てとれます。また、「**将来の夢や目標を持っているか**」との質問に対して、小学６年生の５人に１人、中学３年生の３人に１人が否定的な回答をしているだけでなく、その割合が前年に比べて増えており、「**将来の夢や目標を持っていない子どもの増加**」が明らかです。

私の質問・提案と教育長の答弁をＱ＆Ａの形で報告します。

私の質問Q 教育長の答弁A 提案 問題点M

Q 次の３施策について、過去1年間における主な実施・進捗状況と成果および今後の課題・対策

A ①「減メディア・親読書」：幅広い広報、毎日朝8時から学校図書館を開館して本の貸出し・紹介、妊産婦や父親になる方を対象に絵本の読み聞かせ実演や本の紹介、幼稚園・保育園・小学校での出張おはなし会の実施、読書記録活動「読書でガチャコン」、小学校低学年の学級文庫の充実等々、環境を整備した。

②読書活動の実態把握：全年齢を対象とした調査は例がなく実施が困難。町内全小中学生対象の読書調査（昨年５月、教育委員会）結果によると、「1か月間に1冊以上本を読んだ児童・生徒」の割合は、小学生で98.2%、中学生で79.1%。

③「まちじゅう読書の宣言」：今日までの検証、今後の具体的方策を盛り込んだ図書館計画および子ども読書推進計画について、R6年4月の策定に向けて、図書館協議会でご議論いただいており、R5年度には答申をいただく予定。まちじゅう読書の取り組みについては、町の誇りとの評価をいただいている。

M ①「やったこと」を数多く挙げるだけで、進捗状況・成果、今後の課題・対策については何も答えませんでした。

②全年齢対象調査が困難なら、「まちじゅう読書の宣言」の達成状況をどのように検証するのでしょうか。また、教育委員会調査では「1か月間に1冊以上本を読んだ」割合が、小学生でほぼ100%、中学生で8割と高いにもかかわらず、なぜ、全国学力・学習状況調査では「全く読書をしない」の割合が、小学校で33.9%、中学校で50.5%となるのでしょうか。異なる調査の結果を引用する際は、調査方法、調査対象、質問文、回答選択肢等を

明らかにして、比較の正当性を説明しなければなりません。
③宣言（H21.3.5）から14年経過して、まだ検証していなかったとは信じられないことです。図書館計画および子ども読書推進計画だけでなく、まちじゅう読書を広げる計画を立てるべきです。

Q ①「学力の低下」と②「将来の夢や目標を持っていない児童・生徒の増加」の要因と対策

A ①「学力の低下」については、今後も、漢字学習、読解力ドリル、タブレットドリル等を活用して取り組んでいく。「減メディア・親読書」の取組を一層推進して、家庭での学習時間の確保や、読書により読解力のベースとなる力の向上等を図っていく。学力向上担当教員による「学ぶ力向上推進リーダー会」を立ち上げ、町独自の「書くことパワーアップ問題」の作成や「愛荘16年教育」の取組を重ねる。
②「将来の夢や目標を持っていない児童・生徒の増加」については、人権に関する町民意識調査（R4.11～12）結果によれば、同じ質問で肯定的に回答した児童・生徒の割合は、小学校で82.2%、中学校で71.4%であり、4月時点に比べ少し上昇しており、将来の夢や目標が持てるような機会が、少しずつ構築されているのではないかと捉えている。

M ①今までの対策が学力の向上をもたらしていないのですから、その延長線上の対策には期待できません。
②否定的な回答の割合を見ると、全国学力・学習状況調査では小学校で21.0%、中学校で34.7%と、町民意識調査の小学生17.8%、中学生28.6%（単純計算）に比べ3～6ポイント高い。異なる調査を持ち出して弁解するのではなく、謙虚に現状を受け入れて、速やかに的確な対策を講じるべきです。

子どもの教育に取り組む全町的組織の立ち上げと施策およびアクションプランの策定

A R5年度、専門家を中心に「教育支援プログラム検討委員会」（仮称）を立ち上げ、教育支援の取組を推進していく。「愛着と誇りを醸成していくためのキャリア教育事業」を展開し、愛荘の地から様々に活躍していける人材の育成を目指していく。

M 今、急ぐべきは基礎的学力の低下を食い止めて、速やかに向上へ転じることです。このような答弁で、保護者の方に納得していただけるでしょうか。

⑵グランドデザイン２０４０について

ご存じない住民の方が多いと思いますが、町は20年後のまちの姿を視覚化する「グランドデザイン２０４０」（案）について、昨年11月下旬、都市計画マスタープランと立地適正化計画との３本立てで、住民の意見を広く募集しましたが、意見を提出した住民は僅か５人とのことです。

私の質問・提案と町長の答弁をＱ＆Ａの形で報告します。

私の質問Q　町長の答弁A　提案　問題点M

Q キャッチフレーズの「つながりを生む田園空間都市」から、町長がイメージする20年後の愛荘町の姿

A 町内各字にわたる豊かな水や緑が織りなす美しい自然や優れた景観等の中で、多様な歴史、伝統、文化が息づく環境にあり、その豊かな環境の中に各字・集落や商工業地域が存在し、周辺の田園地域と有機的なつながりを持ち、共生するというイメージを持っている。町民の皆さまも、鈴鹿山系からの水が町内河川へ流れ、中山道宿場町を含む、より商業に根差した地域と、広範にわたって広がる田園地域とが共存する緑豊かなまちとして調和している姿をイメージしていただけると思っている。

M 抽象的な美辞麗句ではなく、愛荘町が目指すあるべき姿を住民がイメージできるよう、具体的に示していただきたいものです。

Q 「20年後のまちの姿」の具体化と実現策

A 今後は、総合計画に基づき、本計画と整合を図りながら、各種個別計画でまちづくりを進めていく。町民・行政・中間組織が協力しながら、今やるべきことにしっかり取り組むことで、持続可能なまちとして次代に確実に引き継いでいけるよう進めていく。

M 一般論ではなく、具体的な施策と工程表を示すべきです。

Q 「中間支援組織」の内容

A Ｒ３年度から地域おこし協力隊を導入し、Ｒ４年度にはコーディネーターの役割を担う３名が着任、Ｒ５年度に向けて起業家10名の着任を目指して、現在、様々な取り組み、仕掛けを行っている。

M 地域おこし協力隊を受け入れた地域の活性化が、愛荘町全体にどのような好循環をもたらしたのですか。

Q 「グランドデザイン2040」「第2次総合計画」「公共施設の最適配置」の関係性と位置づけ

A 「総合計画」が最上位計画で、その下に各種個別計画がある。「グランドデザイン」は総合計画と各種個別計画の間に位置し、「公共施設の最適配置」は個別計画に基づく取組の一つである。

M なぜ策定時期が、公共施設の最適配置（R3.4）、グランドデザイン2040（R4.11）、第2次総合計画・後期基本計画（R5.2）の順となったのですか。なぜ公共施設の最適配置を先行したのですか。

小中学生をはじめ若い世代の計画案に対する意見聴取

A グランドデザイン構築検討委員会では、次代を担う方や大学生にも委員として参画いただき、幅広く意見を伺って計画案を作成し、18歳以上の住民対象に町民アンケートを2回実施して参考にした。計画の完成後、町民や小中学校へ計画冊子を配布し共有を図る。

M 20年後に、現在の小学6年生は31～32歳、中学3年生は34～35歳になって、愛荘町の主役になります。その世代の意見を聴くべきです。

今回のパブコメで提出された意見を含む大幅な見直し

A 20年後を見据えて議論して作り上げたもので、愛荘町に合った内容であり、大幅に見直すことは考えていない。パブコメで出された意見については参考にさせていただく。

M 構築検討委員会の答申（R3.3）から2年経過、その間に急加速した人口減少・テクノロジー化、脱炭素に対応して内容をアップデートして、コンパクトシティ・スマートシティの実現を具体化すべきです。

たかしの「一言」

「好循環のまちづくり！」（枝廣淳子著、岩波新書）を読みました。

著者は、全国各地でまちづくりに関与した豊富な経験から、元気で勢いの感じられる、生き生きとしたまちがある一方で、よどみ感の広がる、活力のないまちも増えており、まちに二極化が進みつつあるとして、今、自治体に問われているのは、「地域経営力」（将来を見据える力、考える力、議論する力、変化を創り出す力、伝える力、つながる・つなげる力）であると述べています。そして、地域を経営するのは、首長や行政職員だけでなく、議員や住民も共同経営者であるとしたうえで、**最悪の組み合わせは、①次の選挙に当選すること**しか考えていない**首長・議員 ②短期的な自己利益**しか考えていない**住民 ③これまでどおりをやっている**だけの**行政職員** の組み合わせだと指摘します。

まちづくりのためには、**年少者も含めて**「このままのなりゆきの未来」と「ありたい未来」、今後大きくなってくるであろう課題などをしっかり話し合い、「最悪の組み合わせ」を「**最強の組み合わせ**」に変えていかねばならないと結論付けています。

耳が痛いのは私だけでしょうか。10年後、20年後の愛荘町のあるべき姿を考えるとき、**町長のもと、職員、議員、住民が一体となって、知恵を絞ることが次の世代への責任**です。

ご意見・ご感想・ご要望はこちらまで
UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
OLD & NEW みんな、いっしょに
もりの 隆（たかし）を育てる会
愛知郡愛荘町愛知川 744-1
TEL：0749-42-6074　FAX：0749-42-5574　携帯 090-3355-4319・takashi0705@icloud.com
ご意見はこちらから